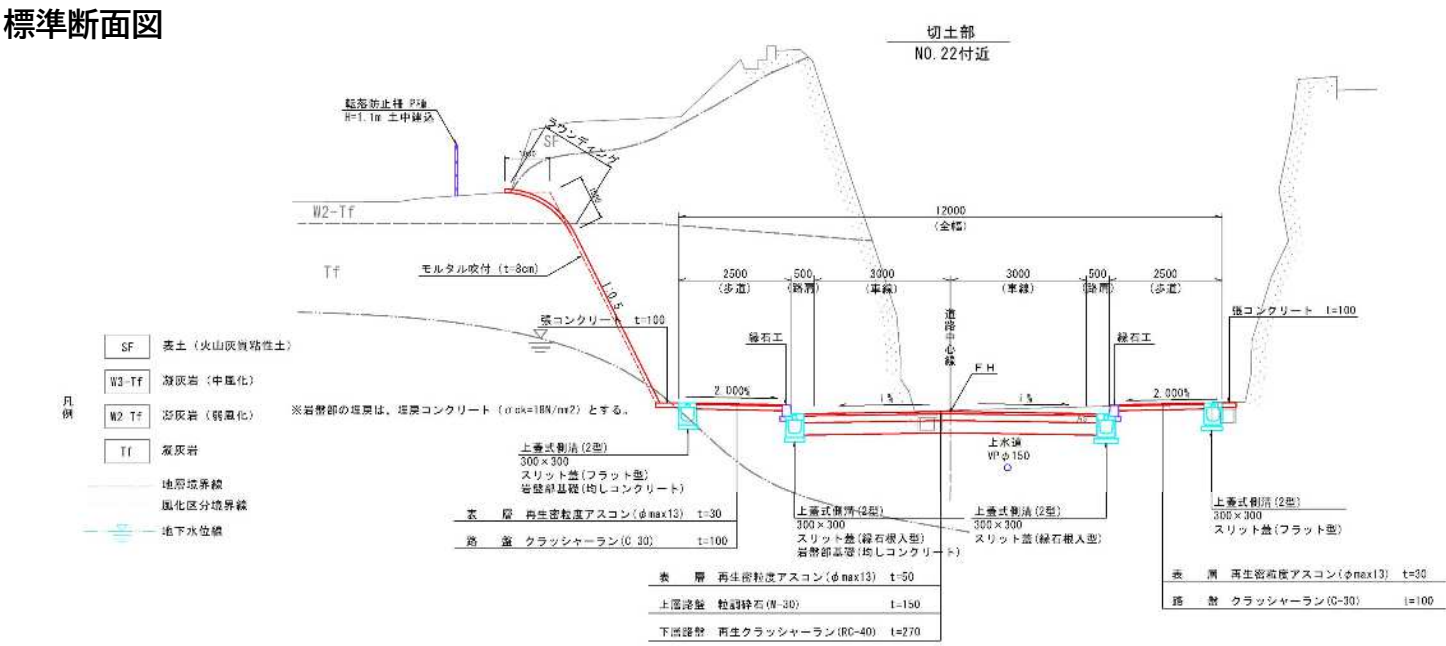




- 現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)
- 現道は、左右を吹付法面で囲まれている掘割道路⇒左側既設吹付面への切土法面計画
 - 計画切土面は、表土を除き軟岩層(溶結凝灰岩、ボーリング調査実施済)⇒切土勾配 1:0.5 で計画
 - 施工時の現道通行帯の確保(対象交通:車両・歩行者)⇒車両:片側交互通行、歩行者:歩道部設置
 - 法面掘削時の仮設計画⇒工事用進入路、仮設防護柵の設置
 - 施工計画検討区間の拡幅側民地への影響とその対応⇒
 - その他支障物件:九電・NTT の電柱(施工前に移設予定)、現道地下に水道管が埋設

- 設計条件
- 道路区分:第 4 種第 2 級 □ 設計速度:V=40km/h
 - 計画幅員:W=12.0m(車線幅員 3.0m×2、路肩 0.50m×2、両側歩道 2.5m×2)
 - 仮設防護柵:車道部(支柱:H 形鋼、土留材:鋼矢板)、民地部(ワイロ・P 支持式の簡易型を仮設使用)
 - 仮設ガードレール:コンクリート基礎(衝突荷重対応)



施工者からの意見および対応方針

- 改善事項
- ・仮設歩道の配置位置について、施工側(左側)にする意味はあるのか。
⇒仮設防護柵位置を確定した上で、施工計画検討区間前後の状況を考慮し、仮設歩道の方針を決定する。
 - ・可能であれば、土砂の置き場を確保したい。(法肩ではなく現道付近)
⇒土砂搬出地点(キャリアからダンプへの積替え地点)で、スペースの確保が可能か検討する。
 - ・法面施工の進捗(法高や進入路勾配)によって、作業効率が違ってくる。
(最も効率が低い状態の想定サイクル:岩掘削→ブレーカー退去→バックホウ進入→キャリア積込
→キャリア搬出+バックホウ退去→ダンプ積替(土砂搬出)→ブレーカー進入→岩掘削)
⇒法肩部での重機待機場所の確保、ダンプが直接进入できる進入路勾配 の観点で追加検討を行う。
 - ・工事用進入路を流下する排水・湧水に対して、現道接続部付近での集水対策
⇒施工範囲内で集水し、現道排水施設に接続する仮設排水計画を検討する。
 - ・施工区間の左側家屋、右側市営集合住宅に対する環境面での配慮が必要(騒音・振動、岩掘削による粉塵)
⇒騒音・振動に対する事前周知・承諾、防塵幕等の使用を検討する。(例:建築工事での養生シート)
- 確認事項
- ・計画切土面の地質は軟岩を前提と考える。⇒ブレーカー掘削
 - ・既設モルタル吹付の事前撤去(モルタル撤去→背面掘削の施工順で工事实施)が難しい。
⇒コンクリート殻が掘削土と混じる可能性があるため、掘削土の処理(再利用方針)を事前に明確化する。
 - ・九州電力・NTT の電柱、架空線が支障となる。
⇒現地着工前の移設完了を目標とし、事前協議を行う。
 - ・水道管の埋設位置、深さの現地確認が必要である。
⇒現道における試掘等を実施し、竹田市立会の上、位置確認を実施する。
 - ・起終点の民地部取付道路の完成形について、住民の理解を得ておく。(取付位置、改良後の勾配 等)
⇒現計画を精査した上で、計画方針や完成形の説明が出来る資料を準備しておく。